

第5学年4組 社会科学習指導案

平成27年10月14日（水） 第5校時
場 所 5年4組教室
児童数 男子13名 女子20名 33名
授業者 國分 隆幸

- 1 単元名 わたしたちの生活と食料生産
小単元名 これからの食料生産とわたしたち

2 単元について

(1) 児童観

①社会科に関わる実態

本学級の児童は、前向きに学習に取り組める児童が多い。社会科においては、「国土の地形の特色」から「水産業がさかんな地域」までを学習してきた。どの単元においても問題解決的な学習を実施してきた。小単元において「つかむ」「調べる」「まとめる・生かす」の流れで行ってきている。1単位時間の流れも、「課題設定」→「予想」→「追求」→「ペア・グループでの共有」→「全体での共有」→「まとめ」→「学習感想」が定着している。

思考の傾向は、事実をとらえることはできるようになってきている。しかし、わかったことから考えたことを表現することについては、苦手な児童が多い。

技能に関する実態は、年度当初からグラフの読み取りをじっくり行ってきた。「グラフ読み取り名人」を配布し、読み取り方の指導をしてきた。「表題には赤線」「単位には赤で丸を付ける」など大事な項目に印を付けさせてきた。また、「全体の傾向を大まかにとらえるように」という指導を繰り返し行ってきた。多くの児童は、グラフから必要な情報やおおまかな傾向をとらえられるようになってきた。

②社会科授業に対する意識調査

【授業前アンケート】実施日9月9日（水） 対象児童33名

グラフ1

〈社会は好きですか〉



☐好き ☐好きなほう ☐きらいなほう ☒きらい

【好き、好きなほう】

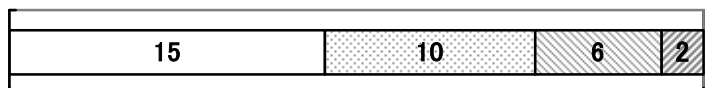
- ・世の中のことがわかる
- ・資料を読み取ることが楽しい

【きらいなほう、きらい】

- ・まとめるのが難しい
- ・世界の国々の国旗を覚えるのが苦手

グラフ2

〈食料品を買う時に何を見ていますか〉



☐値段 ☐産地 ☐賞味期限 ☒特に考えていない

【値段】

- ・安い方がいい

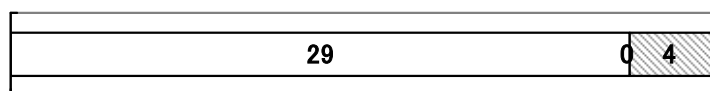
【産地】

- ・どこで作られたわかった方がいい

【賞味期限】

- ・同じ物なら長い方がいい

グラフ3 〈国産と外国産ではどちらを買いますか〉



☐ 国産 ☐ 外国産 ☐ どちらでもよい

【国産のイメージ】

- ・安心
- ・安全
- ・おいしい
- ・どのように育てているか分かる

【外国産のイメージ】

- ・薬などが入っていそう
- ・新鮮ではない

【考察】

事前に行ったアンケートでは、『社会科は好きですか』（グラフ1）という問いに対して、33名中29名が好意的な回答している。好きな理由は様々であったが、「社会のことがわかる」「世界のことがわかる」など新しい知識を習得したときに、楽しさを味わっていることがわかった。また、「資料を読み取るのが楽しい」という意見も多かった。嫌いな理由としては、「自分の考え・まとめを書くのが難しい」と表現することに対して苦手意識を持っていることがわかった。資料からわかったことを関連づけて自分の言葉で書くことは、クラスの問題の一つでもある。

『食料品を買うときに何を見えていますか』（グラフ2）という問いに対しては、「値段」という回答が多かった。「自分のおこずかいで買うなら安いものがいい」という理由であった。「産地」という答えも多く、安心・安全なものを買いたいと考えている児童がいることがわかった。しかし、アンケートをとった時の反応として、「あまり買い物をしたことがない」という声が多かった。買い物に行ったとしても、「〇〇を買ってきなさい」と言われることが多く、買う時に何を基準に買っているか判断をしていないことがわかった。「もし、自分で買うとしたら」というイメージで回答させた。

『国産と外国産ではどちらを買いますか』（グラフ3）という問いに対しては、33名中29名が国産と回答した。「安心」「安全」「おいしい」というイメージを持っており、反対に外国産に対しては「安全ではない」「おいしくない」というイメージがあった。また、食品偽装や異物混入に触れた回答もあった。

（2）教材観

本単元は、小学校学習指導要領解説社会編の第5学年の目標（2）（3）、内容（2）のAを受けて設定したものである。目標や内容、内容の取り扱いについて、以下のようにとらえた。

第5学年の目標

（2）①我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連について理解できるようにし、②我が国の産業の発展や社会の情報化の進展に関心をもつようにする。

①:理解に関する目標 ②:態度に関する目標

①「我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連について理解できるようにし」とは

- ・農業や水産業などの食料生産にかかわる産業、工業生産にかかわる産業を取り上げ、これらの産業の特色と貿易や運輸などの働き、産業に従事している人々の工夫や努力を理解できるようにすること
- ・我が国の食料生産や工業生産にかかわる産業が国民生活を支える重要な役割を果たしていること
- ・国土の環境と深いかかわりをもって営まれていること

・我が国の情報産業が国民生活に大きな影響を及ぼしていること

②「我が国の産業の発展や社会の情報化の進展に関心をもつようにする。」とは

・我が国の産業がそれに従事している人々の様々な工夫や努力によって発展していることや、そのことによって国民生活の維持と向上が図られていること、社会の情報化が進展していることや情報化した社会においては情報の有効な活用が大切であることに関心をもつようにすること

第5学年の目標

(3) ①社会的事象を具体的に調査するとともに、②地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、③社会的事象の意味について考える力、④調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

①～④:能力に関する目標

①「社会的事象を具体的に調査する」とは

・我が国の国土や産業に関する社会的事象を具体的にとらえたり、その意味について考えたりするために、観点や質問事項を決めて、詳しく見たり聞いたりするなどの調査を行うこと

②「地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し」とは

・我が国の国土や産業に関する社会的事象を具体的にとらえたり、その意味について考えたりするために、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用すること

・資料を例にすると、第5学年においては、次のように活用すること

ア 資料から必要な情報を読み取る。

イ 資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる。

ウ 複数の資料を関連付けて読み取る。

エ 必要な資料を収集したり選択したりする。

オ 資料を整理したり再構成したりする。

③「社会的事象の意味について考える力」とは

・国土の環境保全や自然災害の防止の重要性を国民生活と結び付けて考える力

・我が国の農業や水産業などの食料生産にかかわる産業、工業生産にかかわる産業、情報産業が国民生活の維持と向上に役立っていることを考える力

④「調べたことや考えたことを表現する力」とは

・社会的事象を具体的に調査したり、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用したりして調べたことや社会的事象の意味について考えたことを表現する力

第5学年の内容

(2) ①我が国の農業や水産業について、②次のことを③調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは④国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや⑤自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。

①「我が国の農業や水産業」とは

・米、野菜、果物などの農産物や畜産物を生産する農業や、魚介類を採ったり養殖したりする水産業

・これらの食料生産は、国土の自然環境を生かして営まれ、国民の生活と密接なかかわりをもつ重要な産業

②「次のこと」とは

・様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること

- ・我が国の主な食料生産の分布や土地利用の特色など
- ・食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き

③「調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ」とは

- ・地図帳や地球儀を活用して学校給食の食材の産地を調べること
- ・地図帳や統計などの各種の資料を活用して我が国の主な農産物や畜産物とその分布、土地利用の特色、主な漁港や漁場など我が国の食料生産の概要、農業や水産業の盛んな地域における生産や輸送の面での工夫を調べること

④「国民の食料を確保する重要な役割を果たしていること」とは

- ・我が国の農業や水産業の盛んな地域では、国民の主食である米をはじめ、食生活に欠かすことができない野菜、果物、畜産物、水産物などを生産し、消費地に送り出すことにより、国民の食生活を支えているという、食料生産の意味を考えることができるようにすること

⑤「自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようする」とは

- ・我が国の農業や水産業に従事している人々が地形や気候などの自然環境を生かすなど、生産を高める工夫や努力をしていることを具体的に考えること

ア ①様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、②食料の中には外国から輸入しているものがあること。

①「様々な食料生産が国民の食生活を支えていること」を調べるとは

- ・様々な食料生産と国民の食生活とのかかわりについて取り上げ、国民の食生活が主食である米をはじめ、野菜、果物、畜産物、水産物などの主な食料を生産する農業や水産業などによって支えられていることを具体的に調べることである。

②「食料の中には外国から輸入しているものがあること」を調べるとは

- ・主な食料の自給率や主な輸入先などを取り上げ、国民の食生活を支えている主な食料の中には、国内で生産されたものだけでなく、外国からの輸入に依存しているものがあることを具体的に調べることである。

(3) 指導観

本小単元「これからの食料生産」で、これまでの農業や水産業のさかんな地域について調べてきたことをふまえて、大単元「わたしたちの生活と食料生産」のまとめとして行っていく。食料生産の問題点について調べ、これからの食料生産のありかたについて自分ができることを考え表現させていきたい。

①「つかむ」段階

スーパーなどの広告をもとに、主な食料の生産地を調査し、クラス全体で白地図に書き表していく。国内で生産されているものだけでなく、外国から輸入されているものも多いということに気づかせたい。

食料自給率の統計資料を提示し、食料生産における問題点を考えさせたい。事前のアンケートでも回答があったように、産地偽装などは児童から意見が上がると考えている。

②「調べる」段階

食料自給率の低さと食の安心・安全について調べる。

ア 食料自給率の低さ

「食料自給率40%」という事実を知った時、児童は「低い」や「なんで?」という感想を持つと予想する。そこから「食料自給率の低い原因を考えよう」という課題につなげていきたい。写真資料や統計資料を提示しながら必要な情報を読み取ることをねらいとする。特に、統計資料の読み取りを丁寧に行いたい。表題や単位に印をつけさせ、

おおまかな傾向をとらえさせる。また、読み取りができていない児童には、タブレットを活用しながら、個に応じたヒントを提示していく。

食料自給率が低い理由をまとめた後に、これからの食料生産について考えさせたい。

「食料自給率を上げなければならない」という考えではなく、「食生活を豊かにするためには輸入も必要」ということをふまえた上で、児童一人一人にこれからどうしていけばいいかの意見を出させたい。

イ 食の安心・安全

児童は、新聞やテレビのから産地偽装や異物混入などの食の安全に関わるニュースを見たり聞いたりしている。事前のアンケートからも、「値段よりも安心なものを食べたい」という意見があった。食の安心・安全については、食料生産の問題点の一つとして認識しているが、具体的にどのような事例があり、どのように対応しているかまでは分かっていない。「安心・安全な食材を手に入れるためどうしたらよいか」ということを自分の生活と関連付けて考えさせていきたい。また、環境保全について触れていきたい。

③「まとめる・生かす」段階

食料生産の現状を整理し、これからの食料生産について考えさせたい。児童の生活にあったいろいろな考えを引き出しながら、実生活と結び付けさせたい。

④小単元を通して

ア 「振り返りカード」の活用

毎時間振り返りカードを書かせていく。授業でわかったことをもとにしながら、「国産（自給率を上げる）」か「外国産（輸入も必要）」という問いに対して、書かせる。授業を通して、考えの変容を明確にすることが目的である。「生かす」段階で今までの変容をふまえながら最終的な自分の考えを表現させたい。

イ 資料を読み取る力の向上

本時である第2時は資料を読み取る力がとわれる。表題や単位に印を付けさせ、おおまかな傾向をとらえさせたい。傾向をとらえられない児童には、注目すべき点を明記した資料（タブレットを活用）を提示して、自力で読み取りを行わせる。

3 目標と評価規準

(1) 目標

我が国の食料生産には、食料自給率の低下や食の安全性などの問題があることを理解し、これからの食料生産のあり方について考えようとしている。

また、我が国の食料生産の現状から学習問題をつくり、統計などの資料を活用して我が国の食料生産をめぐる問題について調べてまとめるとともに、これからの食料生産について何ができるか自分の考えをもって話し合いに参加し、これまで学習したことと関連づけて考え、適切に表現している。

(2) 評価規準

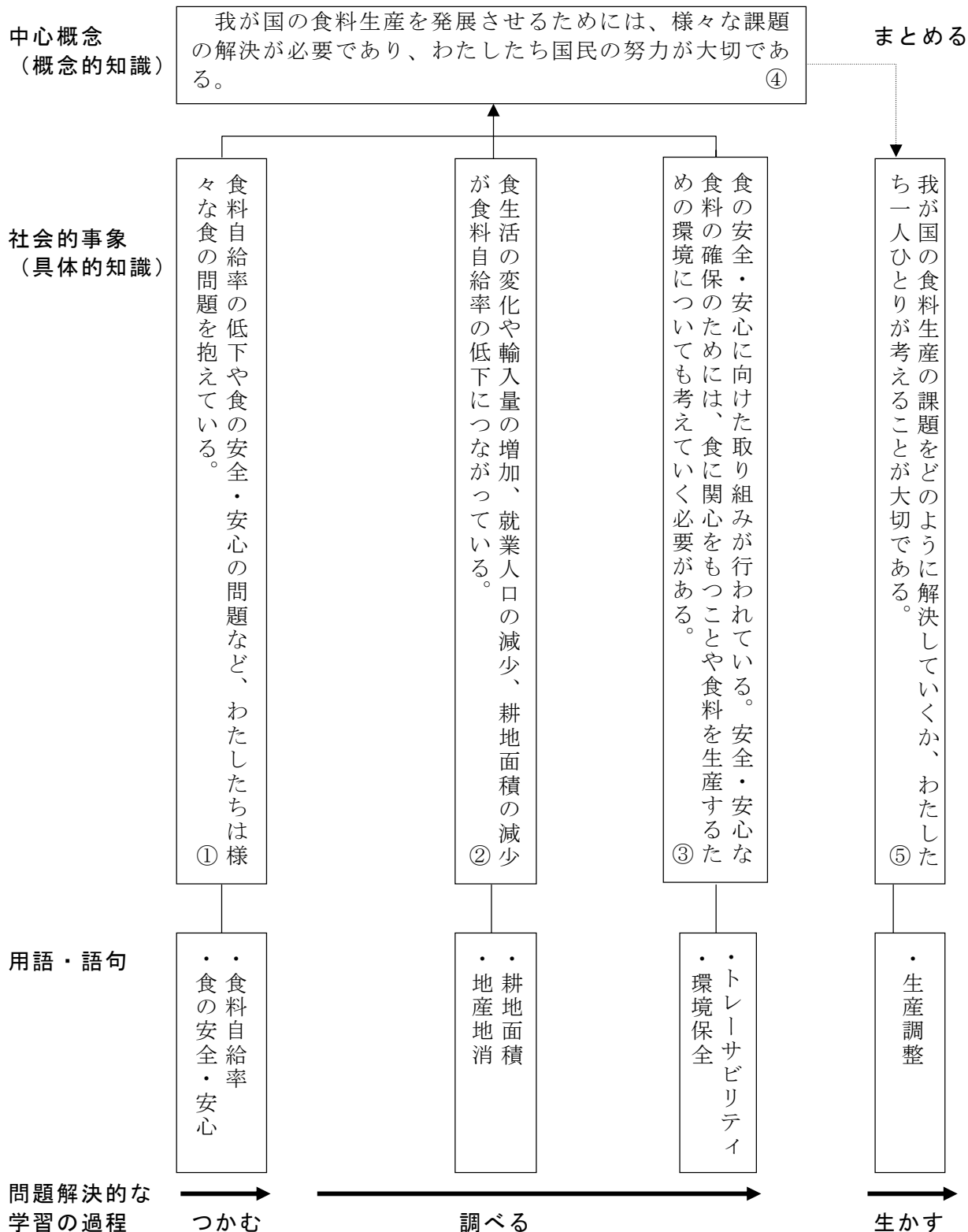
社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象についての 知識・理解
我が国の食料生産の現状と未来について関心をもち、意欲的に調べるとともに、自分の生活と食料生産とのかかわりから、これからの我が国の食料生産について考えようとしている。	我が国の食料生産をめぐる問題について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、食料自給率の低下や食の安全・安心、生産者と消費者などの観点をもとに、思考・判断したことを適切に表現している。	地図や地球儀、統計などの資料を活用して、我が国の食料生産の問題点について必要な情報を集め、読み取るとともに、調べたことを図や文章にまとめている。	さまざまな食料生産が国民の食生活を支えていることと、食料の中には外国から輸入している物があることを理解し、我が国の食料生産には、食料自給率の低下や食の安全性などの問題があることを理解している。

4 知識の構造図

学習指導要領の「内容」との関連
内容（２）

我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。

ア 様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること



5 指導と評価の計画 本時 2 / 5 時

	学習活動・内容	評価の観点・内容・方法
つかむ	① よく買い物をしているスーパーマーケットのチラシをもとに、食料（肉、魚、野菜）はどこで生産されているかを考え、学習問題を立てる。 ・スーパーマーケットで販売されている商品を選ぶ基準 ・スーパーマーケットで売られている食料品には多くの輸入品があること ・同じ食材の国産と外国産の違い（味、値段、安全性） ・輸入のみで日本で生産されていない食物	関 自分の家で食べている食料に関心を持ち、問題意識をもって意欲的に調べている。 〈発言・ノート・振り返りカード〉
	【学習問題】 日本の食料生産にはどのような問題点があり、それに対してどのような取り組みをしているのだろう。	
調べる	本時 ② 日本の食料自給率についての現状と取組を統計資料などから読み取る。 ・土地利用の変化 ・農業や漁業で働く人の変化 ・食料品の輸入量の変化 ・地産地消	技 日本の食料自給率についての現状を統計資料などから読み取る。 〈発言・ワークシート・振り返りカード〉
	③ 食の安全・安心への取組について考える。 ・トレーサビリティ ・田の環境保全機能 ・漁師による植林 ・植物や動物が生活しやすい環境作り	知 食料生産と環境とのつながりに興味を持ち、安心・安全な食料のために環境を保全する必要があることを知る。 〈発言・ノート・振り返りカード〉
まとめる・生かす	④ 調べてきたことをもとに学習問題に対する自分なりの結論を考え、話し合う。 【学習問題に対する結論】 日本の食料生産は、食料自給率が低く、輸入に頼っているものが多い。私たちが食料を安定して確保していくために、食料自給率を上げる努力をしたり、安全な食料を提供するための取組をしたりしている。	思 調べたことをもとに、学習問題について話し合い、自分なりの結論を導き出している。 〈発言・ノート・振り返りカード〉

	⑤ これからの日本の食料生産についてできることを考える。 ・食料自給率向上のための5つのアクション ・耕地面積の増加 ・若者の就業率向上 ・インターネットによる販売	関 これからの日本の食料生産のあり方について意欲的に考えている。 〈発言・ノート・振り返りカード〉
--	--	---

6 本時の学習指導（2／5時）

（1）目標

日本の食料自給率についての現状を統計資料などから読み取る。

（観察・資料活用の技能）

（2）準備

・大型モニタ パソコン タブレット ワークシート 振り返りカード

（3）展開

過程	学習活動	○指導上の留意点 ◆評価規準（観点）【評価方法】→支援	資料等
導入 5分	1 学習計画を振り返りながら、本時の活動をとらえる。	○学習計画から本時の活動の大まか流れをとらえさせる。 ○食料自給率の資料を提示し、問題意識を持たせる。	統計資料
展開 30分	2 課題を知る。		ワークシート
	日本の食料自給率が低い理由を調べよう。		
	3 予想する。	○課題を聞きながらノートにていねいに書かせ、声に出して確認し、本時の学習活動に見通しを持たせるようにする。 ○既習事項や生活体験をもとに、課題に対する予想を書かせる。 ○前時で扱った「食生活の変化」も要因の一つであると伝える。	
	4 資料から分かることを書く。	○表題や単位に印を付けさせ、グラフ1だけ確認する。 ○3つの資料を提示して、それぞれの資料からわかることを書かせる。	
グラフ1 (折れ線グラフ) 食料品別の輸入量の変化（食料需給表平成23年度版より） グラフ2 (帯グラフ) 産業別の人口の割合の変化（労働力調査年報平成24年ほかより） グラフ3 (折れ線グラフ) 土地利用の変化（総務省統計局日本の長期統計ほか）			

		○資料を読み取れない児童には、タブレットを配布し、その中にあるヒントを見ながら読み取らせる。 ○隣の児童と意見を交流させ、青鉛筆で書き加えさせる。 ○全体で意見を共有する際には、大型モニタに資料を提示し、ペンで書き込みをしながら発表させる。	タブレット
	◆日本の食料自給率についての現状を統計資料などから読み取る。 (観察・資料活用の技能) 【発言・ワークシート】 十分満足できる状況 (A) ◎資料から分かる事実だけでなく、その要因についても考えることができる。 支援→なぜそのような傾向になったのかを考えさせる。 おおむね満足できる状況 (B) ○資料から事実を読み取る。 支援→「読み取り名人」に即して、グラフの大まかな傾向を読み取らせる。 支援が必要な状況 (C) △資料から事実を読み取れない。 支援→タブレットを配布し、注目すべき点を明確にして読み取らせる。		
	5 分かったことをもとに、課題に対するまとめを自分の言葉で書く。	○「～が食料自給率の低下につながっている」と文末を提示して書かせる。	
	【児童に期待するまとめ】 食生活の変化や輸入量の増加、農業や漁業で働く人や田・畑が減っていることが食料自給率の低下につながっている。		
	6 学校給食で出される国産品の自給率や自給率を上げる必要性や輸入の大切さを理解する。	○事前に録画しておいた栄養士さんの話を見せる。 ○自給率を上げる必要性和輸入の大切さに気づかせる。	大型モニタ
終 末 5 分	7 本時のまとめをする。	○振り返りカードに価値判断を含めた感想を書かせる。 ○迷っている児童がいたら、どんなことに疑問を感じているか個別に確認し、書かせるようにする。	振り返り カード

7 資料
・板書計画

学習問題 日本の食料生産にはどのような問題点があり、それに対してどのような取り組みをしているのだろう。	大型モニタ (提示資料) ・主な国の食料自給率 ・和食と洋食の朝食 ・食料品別の輸入量の変化 ・産業別の人口の割合 ・土地利用の変化	資料からわかったこと ・輸入が増えた ・農業や水産業をやる人が減ってきている。 ・耕地面積が減ってきている。 まとめ 食生活の変化や輸入量の増加、農業や漁業で働く人や田・畑が減っていることが食料自給率の低下につながっている。
--	---	---

・グラフ読み取り名人

グラフ読み取り名人

- ①表題を読む
- ②たて軸と横軸の単位を確かめる
- ③全体にどのように変化しているかをとらえる
- ④特ちょう的なところがあるかを見る
- ⑤変化の原因を考える

グラフ 1
(折れ線グラフ)
食料品別の輸入量の変化 (食料需給表平成 23 年度版より)

・振り返りカード

これからの食料生産とわたしたち ～学習計画・評価カード～		組 名 前
① 月 日 () わたしは、 です！ 	疑問・調べてみたいこと 	② 月 日 () わたしは、 です！
③ 月 日 () わたしは、 です！ 	学習問題 	④ 月 日 () わたしは、 です！
⑤ 月 日 () わたしは、 です！ 	学習問題に対する予想 	
	学習問題に対する結論 	